

# 京武 久美(きょうぶ・ひさよし)

## 1、プロフィール

寺山修司らと高校時代全国十代俳句研究誌「牧羊神」を創刊した。

「暖鳥」「天狼」「萬緑」「寒雷」「氷海」「七曜」「埠頭」等を経て「海程」「黒艦隊」に所属。句集「二月四日」がある。

### <生没>

1936(昭和 11)年 ~ 2023(令和 5)年 4 月 6 日

### <代表作>

天地漕ぐ音して父母のじゃっば汁  
春の雪誰もが忘れ物して漂う  
雪はげしわれを手込めのわれを憎む  
てんとうむし曝書に溺れ無芸なり  
空っ風鬱を育てて父に及ぶ

### <青森との関わり>

青森市生まれ。「暖鳥」に投句、「黒艦隊」創刊に参加。

## 2、作家解説

小学 6 年のときに、長兄の影響で作句を始める。

1949(昭和 24)年、野脇中学校(現青森南中学校)2 年生の時に寺山修司が転校してきて同じ学級となる。在学中、寺山らとともに俳句や短歌などを掲載した学級雑誌を編集・発行した。

1951(昭和 26)年、寺山とともに青森高校に入学、文学部に入部する。1 年生の時に、寺山を含めた俳句仲間と「やまびこ」句会(後「山彦俳句会」)を結成し、毎週のよ

うに句会を開いた。また、俳句誌「山彦」(5号より「青い森」と改称)を発行、印刷人などを務めた。さらに、当時青森高校の教諭で俳句雑誌「暖鳥」の同人・宮川翠雨のもとに毎日のように句を持参し、添削をしてもらった。俳句の腕を磨く一方、寺山ら俳句仲間とともに校内俳句大会、県下高校俳句大会などを次々に開催、卒業間際には全日本学生俳句コンクールを実行し、自ら第1位となった。後に、このときの参加者を中心に全国規模の十代俳句研究誌「牧羊神」を寺山らと創刊、編集発行した。

1954(昭和29)年、青森高校卒業後、印刷所に勤務して「牧羊神」の編集・発行を続けた。同年、7月に「牧羊神」の事務局が東京に移って以降、東北海運局に就職し、転勤生活を送る。「暖鳥」「天狼」「萬緑」「寒雷」「氷海」「七曜」「埠頭」を経て「海程」「黒艦隊」に所属した。

2009(平成21)年、自身の誕生日をタイトルにした唯一の句集『二月四日』を刊行した。

令和5年7月6日、仙台市の病院で死去。享年87。

〈『二月四日』より〉

菝の花滅びるものは翔ちにけり  
ががんぼやけむりのようなかくれんぼ  
川に落とせば漂う葉っぱ四月馬鹿  
酔うて候俳句は時に月明り  
月の出に言葉きらめく森を帰る  
かまきりと道化ていまもおのぼりさん